


## 学会成果報告書

学会名	第 74 回日本消化器外科学会総会		
大会長所属	東京慈恵会医科大学外科学講座消化器外科		
大会長氏名	矢永勝彦		
テーマ	病人から学ぶ消化器外科学		
開催日	2019 年 7 月 17 日～19 日	参加人数	7,134 名
場所	グランドプリンスホテル新高輪		
<p>学会サマリー</p> <p>2019 年 7 月 17 日から 19 日の 3 日間、第 74 回日本消化器外科学会総会が東京慈恵会医科大学外科学講座消化器外科分野担当教授矢永勝彦会長の下、グランドプリンスホテル新高輪で開催いたしました。本学会総会は過去に綿貫喆教授（第 9 回）、櫻井健司教授（第 40 回）が会長を務めており、実に 27 年ぶり 3 回目の本学開催となりました。テーマは本学建学の精神に則り「病人から学ぶ消化器外科学」としました。総採択演題数は 3,026 演題で、学会参加人数は、10 年ぶりに 7,000 人の大台を超え（7,134 人）、大盛況でした。学会期間中は、「東京慈恵会医科大学の歩み」ならびに「慈恵医大外科学講座の変遷」と題して本学の 130 年史と外科学講座の歴史をパネル展示しました。さらに未来の消化器外科医らに積極的に討論に参加して頂くことを期待して、本総会から総会 1・2 日目に「専攻医セッション」を新設して若手専攻医の学会発表ならびに質疑応答の機会がより多く確保できるようにしました。</p> <p>近年、外科領域においても患者の高齢化に伴って心機能低下や腎障害を伴った患者数が増加しています。このような背景から総会 2 日目午前に、ワークショップとして「腎機能障害を有する患者の周術期管理」を企画しました。腎機能障害を有する消化器外科手術の周術期管理の工夫、合併症や予後に及ぼす影響など多くの演題が寄せられました。この中から 9 題の演題を選出し積極的な質疑応答が行われました。総会 2 日目夕方には、特別企画「オペレコを極める」を開催しました。本企画では、日々作成されている手術記録とその作成方法を公募し、より良い手術記録の作成法について議論しました。総応募数 75 題から上位 10 演題を口演に選出し、アンサーパッドを用いた参加者投票で順位を決める参加型企画で好評を博しました。また矢永勝彦学会会長講演のテーマは「若手消化器外科医を育てる」でしたが、会長講演としては異例の立ち見が出る程の賑わいでした。総会 3 日目には、ワールドカップ開催直前であるため、日本ラグビーフットボール協会副会長清宮克幸氏に「清宮流チームマネジメントの極意」のタイトルで大勢の聴衆を魅了したご講演を頂き、本学会の成功に花を添えていただきました。</p>			